



GE Healthcare

PRESS RELEASE

2012 年 7 月 3 日

GE ヘルスケア・ジャパン

読影医の負担を軽減し、読影精度・効率を高める統合ソリューションを提供開始

**新発売の Centricity PACS 4.0、3D 画像解析サーバー、レポーティングシステムなど
多彩な医療 IT 製品・サービスを組み合わせて、各業務工程を最適化**

医療課題の解決に取り組むヘルスケアカンパニー、GE ヘルスケア・ジャパン株式会社(本社:東京都日野市、社長:川上潤)は本日 7 月 3 日(火)、読影医の負担を軽減し、読影の精度向上と効率改善に貢献する新たな統合ソリューションの提供を開始します。

本統合ソリューションは新発売の GE ヘルスケア製 PACS(医用画像管理システム)^{*1}「Centricity PACS 4.0(セントリシティ・パックス 4.0)」、ならびに 3D 画像解析サーバー「AW サーバー(エーダブリュ・サーバー)」、レポーティングシステム「Centricity i³(セントリシティ・アイキューブ)」など、当社の多岐にわたる医療用 IT 製品・サービスを組み合わせたもので、読影医が 1 日に手がける業務工程ごとに最適なソリューションを提供して、読影プロセスを総合的にサポートします。

急増する国内読影医の負担

CT(コンピューター断層撮影装置)や MRI(磁気共鳴断層撮影装置)、マンモグラフィー(乳房 X 線撮影装置)などの撮影画像から異常所見の有無を判断し、病気を診断する読影医。その数は国内で約 5,700 人と米国に比べて約 5 分の 1、また人口 100 万人あたりの読影医数も平均約 36 人(米国に比べて約 3 割)と極めて少ないのが現状です^{*2}。しかしながら、画像撮影装置のデジタル化や高機能化に伴い、2008 年度の調査当時で読影医 1 人当たりの平均読影件数は年間約 8,200 件、米国の 2,700 件と比較して約 3 倍となっています^{*3}。

この流れに拍車をかけたのが 2008 年 4 月の診療報酬改定で、「CT/MR/RI の 8 割以上の読影結果が常勤専門医により、遅くとも撮影日の翌診療日までに主治医に報告されていること」などを満たせば、点数が加算されるようになりました。そのため、読影医は数多くの画像をできるだけ素早く読むことが求められるようになり、結果として読影医 1 人当たりの負担は増大し続けています。

読影医の負担を軽減し、読影の精度・効率をアップに貢献する新たな統合ソリューション

急増する読影医の負担軽減に向けて、国内の数多くの読影医のニーズをもとに創り上げたのが本日から提供を開始する新たな統合ソリューションです。1 日の読影スケジュールの把握から読影画像の検索・選択・調整、3D 化・計測・解析、読影後の画像共有まで、読影医が朝から晩までに手がける業務を 16 工程に分解し、各工程で読影医が抱える課題を精査。柔軟性の高い画面表示や直感的な操作で読影をサポートする新発売の Centricity PACS 4.0 を軸に、ネットワーク経由で高機能な解析ソフトを容易に活用可能な 3D 画像解析サーバー、ならびに検査情報からレポート作成・管理までをスムーズに連携するレポーティングシステムなどを組み合わせて、それぞれの工程で最適なソリューションを提供します。

当社の幅広いラインアップを組み合わせた統合ソリューションの導入で、読影医の負担を軽減し、読影の精度・効率をアップさせることで、より確かな診断や検査から結果報告までの待ち時間短縮など、患者さんのメリットにもつながると期待されています。

新統合ソリューションの主な特長(詳細は3~4ページのイラストをご参照下さい)

1. 読影医の使用頻度が高い解析ソフトを搭載し、診断精度と効率を大幅にアップ

- 抗がん剤治療の効果判定に寄与する「OncoQuant」

病変部の経時的な変化をより簡単に計測できるのが OncoQuant (オンコクアント)。例えば、抗がん剤治療の効果判定基準の1つである RECIST (レシスト) では、複数の腫瘍の最長径とその変化率を測定する必要がありますが、OncoQuant を用いると、自動で輪郭を抽出させた対象をクリックするだけで複数病変の最長径を自動検出し合計値と変化率を自動算出。読影負担を大幅に軽減します。

- 低侵襲の大腸検査法「CT コロノグラフィー」に役立つ「Colon VCAR EC」

CT 画像を用いて大腸がんなどを検出する低侵襲の大腸検査法である CT コロノグラフィーを支援するのが「Colon VCAR EC (コロノ・ブイシーエーアル・イーシー)」。自動で大腸のみを抽出し、二重造影像と類似した腸管の 3D 画像や仮想内視鏡画像などを表示できるほか、経口造影剤で高濃度にした残渣・残液をワンクリックで腸管と分離できます。また指定サイズ以上の球状のオブジェクトを自動的に色づけして注意を促す機能も搭載し、読影を高度にサポートします。

- 形態画像と機能画像を重ね合わせて比較参照できる「Integrated Registration」

CT や MRI で撮影した形態画像に、PET (陽電子放射断層撮影装置) や SPECT (単光子放射断層撮影装置)、X 線アンギオ装置などの機能画像を重ね合わせて比較参照できるのが「Integrated Registration (インテグレイテッド・レジストレーション)」。2D 画像と 3D 画像の重ね合わせも可能なため、読影・解析精度向上に貢献します。

2. 大量の画像を最小限の労力で的確に操作できる「シリーズナビゲーター」

過去の撮影画像との比較読影を支援するのが「シリーズナビゲーター」。従来は過去の画像を検索・選択して希望のレイアウトに配置するには、数多くの操作やマウスの移動を伴いましたが、新機能の「シリーズナビゲーター」では最少のステップ、かつ最短のマウス動線での画像操作を実現します。

3. 院内外で、いつでもどこでも見たい情報にアクセスできる「Centricity CDS」とモバイル PACS「CRMA」

作成されたレポートや画像データは、「Centricity CDS (セントリシティ CDS)」で一元管理することで、院内のあらゆる診療科・部門間で簡単に共有し、すばやく閲覧できます。また、スマートフォンやタブレット端末上で PACS の機能をいつでもどこでも利用可能な「CRMA (シーアールエムエー)」を活用することで、学会など外出先や移動中に緊急の読影案件が発生した場合も、その場で読影できます*4。

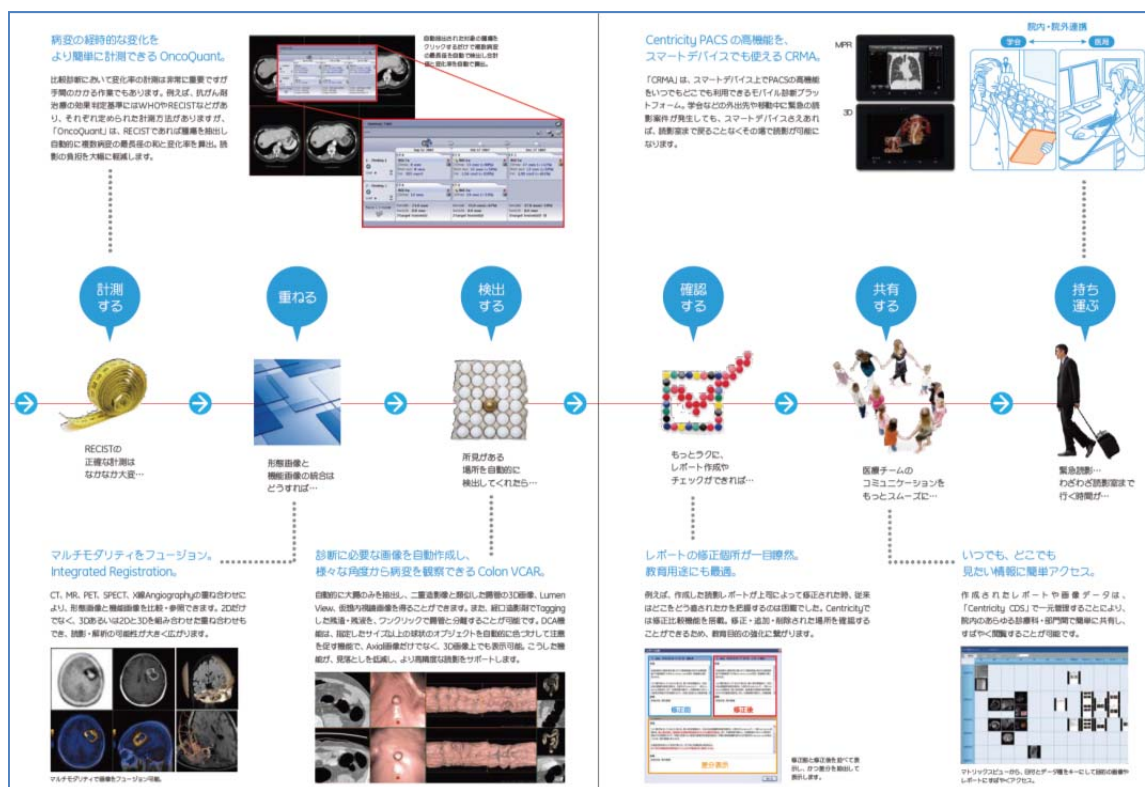
当社は現在、高機能 PACS「Centricity」シリーズのほか、読影ワークステーション「Centricity RA1000」、レポートインテグレーションシステム「Centricity i3」などの読影ソリューション、統合参照ソリューションである「Centricity CDS」、循環器向けの統合管理支援ソリューションの「Centricity Xi2」など、多彩な医療用 IT ソリューションを大学病院などの大規模病院から中・小規模病院まで幅広い医療機関に導入しており、大規模施設では約 15% のシェアを有しています(自社調査)。

また今年 3 月には、クラウドコンピューティングを活用した医療用画像のデータホスティング・サービス「医知の蔵(いちのくら)」(<http://www.ichino-kura.jp>) の本格運用を開始、4 月には国内で初めて薬事認証を取得したモバイル PACS「CRMA」を導入するなど、診断・治療の質の向上、ならびに画像データのセキュリティ強化や病院経営の効率化につながる医療 IT 製品・サービスを相次いで市場投入しています。

当社は新発売する「Centricity PACS 4.0」を含めた新たな統合ソリューションを、すでに Centricity シリーズを導入している医療機関のアップグレード、ならびに放射線科を有する中・大規模病院の新規購入を主対象に販売します。また、医療機関のニーズに細やかに対応できる多彩な医療 IT ソリューションの導入を通じて、日本が今後直面する超高齢社会に不可欠な在宅医療や地域医療連携、遠隔医療などをサポートし、「人にやさしい、社会にやさしい」医療の実現に貢献することを目指します。

～ 読影医の業務を 16 工程に分解し、各プロセスで読影医に最適なサポートを提供 ～





- *1: PACSはPicture Archiving and Communication Systemの略で、CTやMRIなどの診断装置で撮影したデジタルの画像データを保管・閲覧・管理するシステム。フィルムの現像や運搬、保管が不要となるため、画像診断が迅速化され、患者の検査後の待ち時間が短縮されるほか、フィルム保管などにかかるコストが削減可能となる。
- *2: 出典：日本放射線科専門医会作業グループ「2007 Global Survey of Radiologists」(2008年7月3日)
- *3: 出典：日本放射線科専門医会作業グループ「2007 Global Survey of Radiologists」(2008年7月3日)
- *4: インターネット接続環境や使用するデバイスにより、読影の質が異なることがあります。

製品名： Centricity PACS 4.0(セントリシティ・パックス4.0)
 発売日： 2012年7月3日
 初年度国内販売目標： 50台
 医療機器認証番号： Centricity PACS 4.0に含まれるワークステーション
 RA1000:20600BZY00483000/その他は認証対象外

その他、本資料に記載された装置の製品名/薬事販売名/医療機器認証番号は以下の通り

製品名	薬事販売名	医療機器認証番号
AW Server	AW サーバー	22200BZX00295000
CRMA	セントリシティ・ラジオロジー・モバイル・アクセス	224ACBZX00006000
Centricity RA1000	セントリシティ・アールエー・1000	20600BZY00483000

- Centricity i3、Centricity CDS、Centricity Xi2、医知の蔵は認証対象外

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社は、ゼネラル・エレクトリック(GE)のヘルスケア事業部門である GE ヘルスケアの中核拠点の 1 つとして、先端的な医療技術ならびに医療・研究機関向けの各種サービスを提供しています。医療用画像診断からライフサイエンス(生命科学)まで幅広い分野にわたる専門性を駆使しながら、GE の世界戦略「ヘルシーマジネーション」で掲げる「医療コストの削減」「医療アクセスの拡大」「医療の質の向上」の実現に向けて、国内外の医療・研究施設を中心に革新的な製品やサービスをお届けしています。主要取扱製品は、CT(コンピュータ断層撮影装置)、MRI(磁気共鳴断層撮影装置)、超音波診断装置、医療用画像ネットワーク、メディカル・ダイアグノスティクス(体内診断薬)、生体情報モニタ、液体クロマトグラフィー装置、細胞解析装置。2012 年 1 月 1 日現在の社員数は 2,050 名、国内の事業所数は 55 カ所。

ホームページアドレスは www.gehealthcare.co.jp (ライフサイエンス統括本部: www.gelifesciences.co.jp)。

お問い合わせ先: GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 コミュニケーション本部
 プランチャード美津子 / 松井亜起
 Tel: 0120-202-021 Fax: 042-585-5360
 Mail: mitsuko.blanchard@ge.com / aki.matsui@ge.com